

6年間にわたる全学的なFD推進プログラムから見えてきたこと

川野 卓二, 神藤 貴昭, 宮田 政徳, 曾田 紘二
(徳島大学 大学開放実践センター)

徳島大学 大学開放実践センターでは、これまで第一期（2002～2004）および第二期（2005～2007）の6年間にわたり全学FD推進プログラムを実施する学内の中心部局として様々なFD活動を行なってきた。本発表では、その間の成果と課題を整理し、第三期（2008～2010）への方向性を探り、これからのFD活動を展望する。

第一期（2002～2004）

2002年2月に開催された徳島大学・大学教育委員会において「全学FD推進プログラム第1期計画」が決定され、2002年度から2004年度まで3年間のFD活動の基本方針が示された。実践センター内の教養教育支援研究開発部門と専門教育支援研究開発部門が共同して全学FDの企画・運営にあたり、実施したFD活動は次の通りであった。

FD基礎プログラム：「徳島大学のFD活動の理念と方法について理解し、推進する方法を示す」、「授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する」、「授業研究の仕方を理解し、実践できる」の3点を目標として、新任教官を対象として実施した。

FDリーダーワークショップ：各部局の教務委員、FD専門委員が集まり、徳島大学におけるFDの当面の課題とその解決、FD推進のための条件整備を促進する方法等について討議した。また、新任教官のワークショップの成果に対するコメンテーターの役割も担った。

FD応用プログラム：FD基礎プログラムに参加した新任教官の実際の授業の1コマをビデオに撮り、それを授業改善の視点から検討した。

FD推進ハンドブック（第1号）（第2号）（第3号）の作成：授業エキスパート・ワークショップで討議され、成案を得た内容をもとに、「徳島大学FD推進ハンドブック」制作推進チームが編集作業を行い刊行し、各教官に配布した。各号の内容は以下の通りである。

<第1号> (2002)

- 第1巻 シラバス作成ハンドブック
- 第2巻 わかりやすい講義の仕方ハンドブック
- 第3巻 よりより成績評価の仕方ハンドブック
- 第4巻 授業改善のための授業研究会運営ハンドブック

<第2号> (2003)

- 第5巻 ビジュアル教材作成ハンドブック
- 第6巻 プリント教材の作り方・使い方ハンドブック
- 第7巻 テスト問題・レポート課題作成ハンドブック
- 第8巻 授業評価アンケートの作り方・フィードバックの仕方ハンドブック

<第3号> (2004)

- 第9巻 レポート作成ハンドブック
- 第10巻 TA活用ハンドブック
- 第11巻 授業改善実例集ハンドブック (CD-ROM付)

FD シンポジウム：当該年度に実施された、徳島大学の学部 FD 及び実践的全学 FD プログラムの成果を発表し、今後の徳島大学 FD 活動の課題と展望を検討、討議した。実践事例報告を通じて、授業における教官と学生間の双方性の確保、及び効果的な演習・実習の仕方について討議し、その可能性をさぐることをねらいとした。

第二期（2005～2007）

「全学 FD 推進プログラム第 2 期計画」が、高等教育支援研究開発部門が作成した原案に基づいて、2005 年 3 月の大学教育委員会で決定された。

FD 基礎プログラム：新任教員のうち、企業等からの採用者、および助手からの昇任者を対象とし、ミニレクチャーや小グループ活動を通じて、授業を計画し、実施し、評価する方法を体得した。最後に「模擬授業」の発表を行い、参加者全員で授業研究会を行った。

FD リーダーワークショップ：10 年以上の教育経験を有し、各学部・学科で FD 企画の立案・実施を行う立場にいる教員が対象となり、FD ニーズの把握から企画の立案、及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得させ、その能力を向上させることを目標とした。

授業コンサルテーション・授業研究会：FD 基礎プログラムの受講者を対象にした企画で、各教員の授業を参観し、授業を VTR に収め、また、授業終了時に学生へのアンケートを実施した。後日、詳細な授業記録を作成し、授業の主要部分の映像を編集して DVD を作成した。それらの資料と教員から提出された授業計画書をもとに、「授業研究会」を開催した。

FD ラウンドテーブル：大学内外から講師を招き、徳島大学教員が直面しているトピックや、FD に関わる諸問題について話題提供していただき、それにもとづいて参加者が気軽に話し合うという、日常的な FD を目指して実施した。

教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ：第一期最終年の 2004 年 11 月に発足し、実質的な活動は第二期に入ってから行われてきた。これまで、学生へのアンケート調査を実施し、高校から大学への授業内容の接続面での課題を明らかにしたり、教育改善のための目安箱を設置し、その開封・整理を行ったりして大学教育委員会へ報告した。

教育カンファレンス：一年間、実践を重ねてきた各部局の教育改善プロジェクトが一堂に会して報告、討議をおこなうもの。発表の形態は、口頭発表、ポスター発表、ワークショップの 3 種類で、他に学外講師による特別講演会も行った。

第三期（2008～2010）

来年度から始まる第三期の FD 推進プログラムでは、FD 専門委員会が本学の FD 全般に対して責任を負うこととし、初年次から大学院までの FD 全体を一貫して検討すること、及び FD をアドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーの全体から検討するという基本方針が 2007 年 11 月の大学教育委員会で承認された。そのため、FD 専門委員会を定例化し、実質的な討議の場とすること、また、教育技術だけでなく、教材開発、新科目創設、予算・財務、教員倫理なども含めて取り上げることになった。